

# 平成 28 年度高松小学校学校運営計画書

学校教育目標 豊かな人間性と自ら学ぶ意欲を持ち、たくましく生きる子どもを育成する。  
～やさしい子 考える子 じょうぶな子～

イメージする学校像

しなやかに、やわらかくも凜とした学校



た

のしい学校

か

んがえる子供

ま

ことの言葉

つ

ながる心

ゆたかな心

やわらかく豊かな「ことば」の環境を創る

子どものころを揺り動かす

- ・美しい日本語の音とリズムを楽しむ味わう。
- ・心に響く詩や名言と出会い、自らの声で表現する。
- ・日本一の音読をめざす。

暗唱、音読、うちどく、  
古典、日本文化との出会い

言葉を日々の営みの中で清水のよう  
うにからだに沁みこませていく

- ・心地よい、いたわりのある、やわらかい、あたたかい言葉で話す。
- ・身近で見つけた不思議、おもしろさ「おや?」「えっ?」「ほお!」の感動を大切にする。
- ・英語に触れ、楽しみながら聞いて話してコミュニケーションしていく力を育む。

たかまつタイムへの「モジュール英語」活動の導入

- ・保護者ボランティアの一層の活動の推進・連携

高学年図書室をもっと魅力ある読書環境へ

確かな学力

心が揺り動く授業を  
希求し続ける

子どもがまことの言葉で語りだす瞬間を探る

- ・教師がまず聴く耳を持つ。じっくり聴き、子どもの本然を推察し受け入れる。それができてこそ、つなぐ、広げるしごとを。
- ・つぶやきにこそ、子どものまことがあることを知り大切にする。

やわらかい教師の姿勢

互いの表情が見える授業スタイルを実現する

- ・聴き方の「あ、い、う、え、お」を浸透させる。友達の発言を受け止めていく。まずは教師がお手本を示し、聞いて考える力を育てていく。

ジャンプする課題を希求する

- ・授業者自身が「トキメキ」を感じる単元構成となる研究を。

心が揺り動く授業の追求

- (1) 教師の 3 つの力を磨く  
①感性 ②単元構想力 ③洞察力
- (2) 研究の中心  
①考える的  
②子供が創る授業  
③相互公開授業・校内研修

褒めて褒めて伸ばす・認め合う  
学び合う教室の空気を創る

開かれた学校

地域・保護者と  
やわらかくつながる

しなやかに発信!

- ・学校だより、学年だより、学級だよりは学校の取組、教育の意図、教師のあたたかい目線、子どもの育ちを伝えるチャンスととらえる。
- ・やわらかさとしなやかさをもって発信。

知る

- ・友だちのことを知る
- ・社会のことを知る
- ・自然とのかかわりを知る
- ・身近な人々のことを知る
- ・生きるということについて知る

めざす学校の姿を明確に提示

- ・だれもが誇りをもって言える「た・か・ま・つ」。その願いを共有し理解する。
- ・子供も大人も、その達成を心に誓う、行動する、振り返る。

地域人材の力に感謝の意を表す

- ・子どもの安全見守りに一声を
- ・地域のありがたさをわかっているということを言葉や態度でどんどん伝える。

重点  
目標

目標  
達成  
に向け  
た具  
体的  
方策

子どもは未完のままで輝いて生きている。教師は、子どもの未完の姿を愛おしみ慈しみながら、やわらかくしなやかに子どものまことに触れ、その育ちを助けていきたい。教育の目的の本質は豊かな人間の育成である。

「高松の子は日本一!!」を合言葉に